

学 習 の 指 針 (シラバス)

教科名	数 学	実施学年	1 年	週時数	4 時間
-----	-----	------	-----	-----	------

1 学習の目標等

学習の目標	<p>(1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、計算に文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し、処理できる。</p> <p>(2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察することができる。</p> <p>(3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を身に付ける。</p>
使用教科書・副教材等	啓林館未来へひろがる数学1 未来へひろがる問題集1年 計算の反復練習

2 学習計画及び評価方法等<6月1日現在>

	月	学習内容	学習のねらい	備 考	評 価
第 1 学 期	6	1 章正・負の数	○正の数・負の数を理解し、四則計算ができる。	1 9 時間	小テスト 単元テスト 定期テスト 授業ノート ワーク
	7	1 節. 正の数・負の数 2 節. 正の数・負の数の計算 α. 素数の積で表すこと	1. 負の数の必要性を知り正・負の数の意味を理解する。 2. 正・負の数の四則計算の意味を理解し計算ができる。 α. 自然数をそれより小さい自然数の積で表すことができる。	2 0 時間	
第 2 学 期		2 章文字式	○文字を用いて式に表現したり、式の意味を読み取ったりすることができ、文字式の計算ができる。		
		1 節. 文字を使った式 2 節. 文字式の計算	1. 文字を用いることの意義を理解する。 2. 文字式の乗法・除法の表し方を知り一次式の加法・減法の計算ができる。		
	8	3 章1次方程式	○方程式を理解し、それを用いることができる。	1 7 時間	小テスト 単元テスト 定期テスト 授業ノート ワーク
	1 節. 方程式 2 節. 方程式の利用	1. 方程式、その中の文字、解の意味を理解できる。 2. 等式の性質を見だし、方程式がそれを基に解けることを知る。 3. 方程式が解け、利用できる。 4. 数量の大小関係を、不等式であらわすことができる。 5. 比例式の意味を知り、それを解くことができる。			
9	4 章変化と対応	○二つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数の中の比例、反比例の関係をみだし考察することができる。	2 3 時間		
	10	1 節. 関数 2 節. 比例 3 節. 反比例	1. 関数の意味を理解できる。 2. 比例・反比例の意味を理解できる 3. 座標の意味を理解する。 4. 比例、反比例を表、式、グラフで表せ、特徴を理解する。 5. 比例、反比例の見方、考え方を活用できる。		

	11 12	5章 平面図形 1節. 直線図形と移動 2節. 基本の作図 3節. 円とおうぎ形	○基本的な図形を見通し持って、作図でき、平面図形の理解を深める。 1. 線対称、点対称の意味を理解し、対称性に着目して平面図形の直観的 2. 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解し、利用できる。 3. 図形の移動の性質を理解し、図形の見方を深める。 4. おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる	20 時間	
第 3 学 期	1	6章 空間図形 1節. 立体と空間図形 2節. 立体の表面積と体積	○空間図形を観察、操作、実験を通して考察し理解を深め、図形の計量ができる。 1. 空間での直線や平面の位置関係がわかる。 2. 空間図形を直線や平面図形の運動により構成されるものととらえ、空間図形を平面上に表現できる。 3. 柱体、錐体、球の表面積、体積を求められる。 4. 投影図を理解し、読み取ることができる。	15 時間	小テスト 単元テスト 定期テスト 授業ノート ワーク
	2 3	7章 資料の整理 1節. 資料の傾向をとらえ説明しよう α. 累積度数	○代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取ることができる。 1. 度数分布表やヒストグラムに表したり相対度数を求めたりして、資料の傾向を読み取ることができる。 2. 平均値、中央値、最頻値の意味や求め方を理解する。 3. ヒストグラムや代表値などを用いて資料の傾向を説明することができる。 α. 累積度数を用いて、資料を活用することができる。	14 時間	

※年間を通して、ティームティーチングで授業を行う。

3 評価について

(1) 評価の観点及び内容

	評価の観点及び内容	評価教材
数学への 関心・意欲・態度	学習内容に興味を持ち、授業に積極的に取り組む。 問題練習についてもワークなどをしっかり進めている。 解らないところはそのままにしないで質問をする などして解決にあたらうとする。 (※説明・発表の際は、間隔を十分に空けるなど十分配慮した上で実施します。)	ワークの取り組み ノートの取り組み 宿題の取り組み (Sノート) ☆授業態度 (発表・忘れ物)
数学的な 見方や考え方	事象を数学的にとらえ、論理的に考えようとする。 定期テストの応用問題が解ける。授業中でも論理的に説明・発表などに取り組もうとする。 (※説明・発表の際は、間隔を十分に空けるなど十分配慮した上で実施します。)	定期テスト 小テスト・単元テスト 宿題の取り組み ノートの取り組み
数学的な 技能	数量の関係について、数学的に表現や処理することができる。 図形ではコンパスや三角定規を用い適切に表現する。 定期テストでは上記の内容の問題を解く。	定期テスト 小テスト・単元テスト 宿題の取り組み ノートの取り組み
数量・図形などについて の知識・理解	基本的な概念、原理、法則、用語、記号などをきちんと理解し、基本的な知識を身につけている。 定期テストでは上記の内容の問題を解く。	定期テスト 小テスト・単元テスト 宿題の取り組み ノートの取り組み

☆印の項目は、授業を欠席した場合評価に含めることができない場合があります。

(2) 観点別評価からの評定の算出の仕方

A = 2点、B = 1点、C = 0点として4つの観点別評価を合計し、下の表に照らして評定を算出します。

評定	観点別評価の合計
5	12点
4	10～11点
3	7～9点
2	5～6点
1	4点